「更にその先へ」

代表取締役社長
宮本 勝弘

1933年、当社は山陽製鋼所としてここ姫路に創業し今年で89年、来年には90周年を迎えます。また当社の100%子会社である北欧のOvako社は16世紀に鉄鋼事業に参入し、既に400年という長い歴史を誇っています。ここまで来られたのは先人の努力の賜物です。しかし益々厳しく変化の激しいグローバル化した社会の中で当社グループが今後100年200年と生き残っていく為には、何が必要でしょうか？

今の時代まず企業のサステナビリティが求められます。脱炭素をはじめとする地球環境問題にも社としてきちんと取り組み、答えを出していかなければ存続していく事はできません。当社は脱炭素については2030年度50%削減（2013年度比）、2050年度カーボンニュートラルの実現を表明しています。またOvako社は既に本年１月からカーボンニュートラル生産を達成しグリーンスチールとして販売すると共に、加熱炉で活用する水素生成装置も建設中です。日本製鉄も総力を挙げて脱炭素に挑んでいます。当社に加え両社の知見も活用して地球環境問題に技術面から積極的に取り組み、循環型社会の先頭を走って行かなければなりません。

これを備えた上で重要なのは商品競争力とコスト競争力です。当社は「高信頼性鋼の山陽」、「品質の山陽」に代表される技術品質優位性、技術先進性を競争力の源泉としてきました。ただ先頭を行く当社に中国をはじめとする国々が、日夜追いつき追い越す為に総力を挙げているのが現状です。私達は常にその先を目指し、技術を発展させて特殊鋼の世界でトップを走り続けなければなりません。当社は営業、技術、生産が一体となってお客様との擦り合わせや協業を行っています。この協業から提起される要請に研究開発で答えを出し続ける必要があります。風力発電や高速鉄道、EV、ロボット、CN等時代を先駆ける特殊鋼商品で常に一歩先を進んでいきましょう。

またコストについても、今まで不断に生産性の向上、省エネ、省力化に取り組み、競争力を維持してきました。日本の高い電力・ガス料金、設備建設費等を考えると、今後も技術を駆使して果断にコストダウンに取り組み続ける他に道はありません。一例として当社の操業技術によりOvako社の生産性が10%、20%と改善した事は大きな成果でした。

かつて軸受鋼の教科書であったOvako社、鉄に関する豊富な知見と先端的な研究開発設備を持つ日本製鉄、当社研究開発部門の３社が連携し切磋琢磨すれば、この先も世界をリードし続ける事ができると思っています。

今後とも皆さまのご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。